

本当にご無沙汰してしまい申し訳ありません。

特に体調変化なく過ごしていましたが、筆無精となってしまっていました。

今回は、当腫瘍内科の宣伝をさせていただきます。

改めて、腫瘍内科とは何をやっているかという、がんに関する総合商社みたいなイメージ（決してお金儲けとかそういうことではないですよ）で考えていただければと思います。開設している病院によって、役割は異なることも特徴です（他の診療科とのバランス）。

当院の場合、例えば、血液腫瘍については、血液内科の内山医師が精力的に取り組んでおられますし、乳がん領域では、乳腺内分泌外科の先生方が手術・薬物療法を問わずトータルで質の高い診療をすでに行っています。従って、当院における腫瘍内科が求められるものとしては、例えば、どこから発生したわからない原発不明がんや、例えば骨軟部腫瘍と言われる頻度がまれなタイプのがん、併存症などにより繊細な対応が求められる場合などに対処していくことだろうと思っています。患者さん目線でいえば、どこかわからないけどがんが心配というような場合に当科にまず来ていただくのがよいように思っています（検査等させていただいた上で、必要時適切な診療科につなげていきますのでご安心ください）。

この間の当科のトピックとしては以下の3つをあげておきます。

1 がん遺伝子パネル検査を実施し、運用しています。

がんゲノム医療連携病院に認定済みです。当科が窓口になっています。現状で院内の診療科からの紹介について対応していますが、今後、院外からの要請にも応えられるように準備を進めています。現在、保険診療のパネル検査に対応していますが、2021年春をメドに、先進医療Bのパネル検査であるTSO500につきましても対応予定となっております。

2 渡辺由貴先生が、当科所属となりました。

現状で、火曜日と金曜日の外来、および平日日中の病棟業務を担当しています。血液の専門医でもあり、当科の診療の質の向上に貢献してくれています。

3 進士が、『臨床遺伝専門医』を取得しました。

1であげました、がん遺伝子パネル検査を行うに当たり、遺伝に関する心配ごとなどに対処できるように、上記専門医を取得しました。信州大学の遺伝子医療研究センターとこれまで以上に連携をとっていきたいと思います。当座は、がんに関する遺伝の相談について対応したいと思います。遺伝に関連した診療については、通常のがん診療とわけて外来時間などを設定し、十分な時間をとって対応していきたいと思います（また詳細は広報させていただきます）。